



# 公園のバリアフリーをチェックしよう！！

公益財団法人 都市緑化機構

ユニバーサルデザイン共同研究会

## 目 次

はじめに

このチェックシートの特徴

### 1. チェックシートの前に

- (1) 公園の周辺状況の確認
- (2) 公園の魅力
- (3) 特定公園施設
- (4) 主要公園施設

### 2. 準備

- (1) 関連する資料収集をします
- (2) 公園を中心とした外部の施設を確認しましょう
- (3) 道具を用意してでかけましょう

### 3. チェックの手順

- (1) 公園周辺の確認をしましょう
- (2) 公園内の概要を確認しましょう
- (3) 調査の準備と下調査をしましょう
- (4) シートを使ってチェックしましょう
- (5) シートの集計をしましょう

## はじめに

私たちの暮らしにおいて身近な生活空間である公園は、利用する多くの方々にとって使いやすい公園でしょうか？利用する上で障害になる要素はないでしょうか？あなたがいつも使っている公園を、ユニバーサルデザインの視点でチェックしてみましょう。

### 例えばこんなこと

- ▶ 園路がデコボコしてつまずく。
- ▶ 階段や急な斜路が多く、年寄りにはあぶない。つかまる手すりもない。
- ▶ 車椅子やベビーカーでの移動ができない。
- ▶ 草木の繁る林地に立ち入り防止柵がないので、子供の安全が気になり。などなど。
- **日ごろの公園利用の中で、安全、安心に関して気がかりなことがあったら、それがチェックのきっかけです。**

## このチェックシートの特徴

このチェックシートは、都市公園のバリアフリー化について法律に基づいて作成されている「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン【改訂版】」（平成24年3月 国土交通省）と、「ユニバーサルデザインによるみんなのための公園づくり」（平成20年2月 一般社団法人日本公園緑地協会）をもとに、公園施設の施設整備基準の適合性（できていること）をチェックするためのチェックシートです。

### できてないことをチェックして、そこを整備すればよいのは？

- ・ この点だけでみれば、そのとおりです。
- ・ しかし、行政は潤沢に公園を整備する予算があるわけではありません。そこで、公園の立地性、位置や特徴を理解して、本当にやらなければいけないことがバランスよくできているか、それが整備の大切な視点になります。
- ・ このチェックシートは、一つ一つの施設のみならず、公園全体のバランスもチェックし、優先的にやるべきことが解るチェックシートなのです。

できているのが当然の「義務項目」については、できていなかったらマイナス評価です。マイナスになってしまった要素を積極的に改修する必要があります。

それに対して「希望項目」がプラスになったら、よりUD化が進んでいる公園であることを意味します。プラスが多い公園は、こんなにUD化が進んだよい公園なのだとアピールしましょう。

# 1. チェックシートのまえに

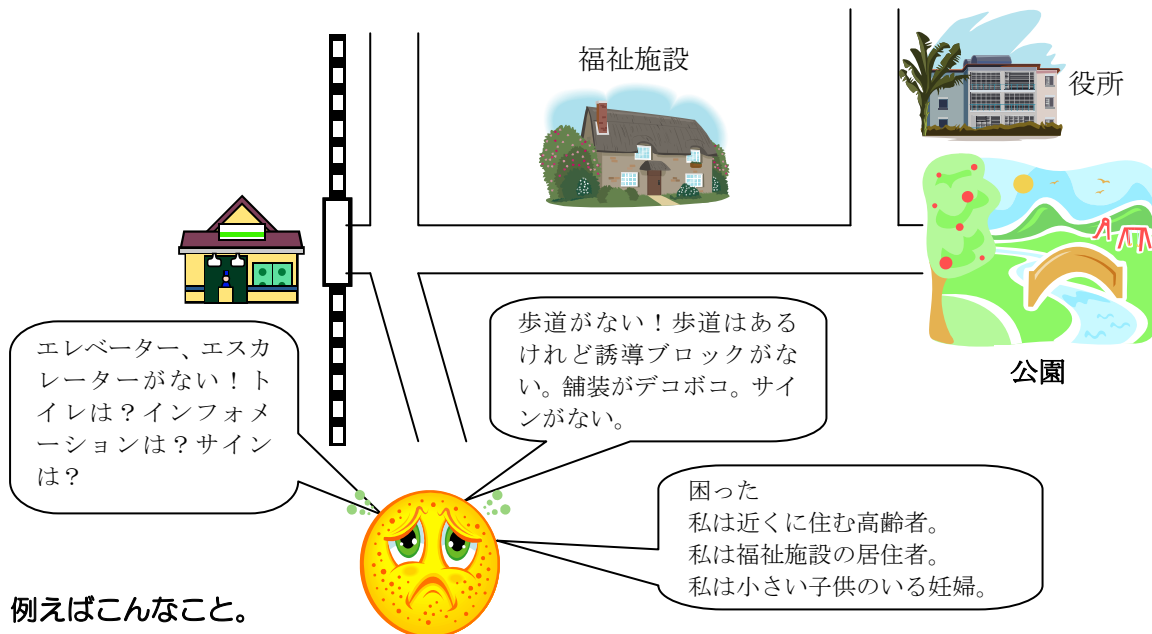
## (1) 公園の周辺状況の確認

公園を取り巻く周辺環境に注目してみましょう。

公園を始め、公的な各種の施設をチェックする場合、通常は本体をチェックしたら、それで終了ということになります。しかし、施設が設置されている場所は全て同じ条件ではありません。例えば、駅からの距離が遠かったり、近かったり、周辺の環境は、住宅地であったり、商業地であったり、学校の多い文教地区であったり、福祉施設があったり、病院があったり…。その状況によって公的な施設や公園が果たす役割は異なります。

下の図は駅から公園までを単純に示していますが、その途中に福祉施設や病院、近くに役所があると仮定します。その場合、公園以外の場所もユニバーサルデザインに配慮されていないと、公園まで来るために、苦労することになってしまいます。駅、道路、福祉施設、役所そして公園が全体的にユニバーサルへの配慮がされる必要があるのです。

そのため、公園をチェックする時には、周辺の状況も合わせて見るのが重要なのです。



例えばこんなこと。

- ・ 駅にはエレベーター、エスカレーターが要所に整備（されている・されていない）
- ・ 駅にはバリアフリートイレが整備（されている・されていない）。
- ・ 駅、駅前広場には地図を含む判りやすい案内板が（ある・ない）
- ・ 駅からは歩きやすい歩道が（ある・ない）。
- ・ 歩道には視覚障害者用ブロックが敷設（されている・されていない）。
- ・ 各種の施設は（使いやすい・つかいにくい）

### 重点整備地区の設定

- ・ 駅は平均 5000 人以上の利用がある場合、ユニバーサルデザインへの対応が必要とされています。命に関わる場所ですから駅のユニバーサルデザインはぜひ進んでいます。
- ・ 法律では、旅客施設と周辺、官公庁、福祉施設等の生活関連施設同士を徒歩で移動する範囲は重点整備地区を設定し、整備を推進することを定めています。
- ・ 最寄りの駅周辺の整備計画を、所轄の行政に確認してみましょう。

## (2) 公園の魅力

調査する公園はどんなところが魅力でしょうか？この公園を使う理由を考えてみてください。

ユニバーサルデザインといえば、一見、施設の機能性に注視しがちですが、公園に魅力があればこそ、利用者は来園するのです。施設は公園の魅力をより向上させるためのツールと言えます。したがって、管理者は利用者いかに公園の魅力を伝えるかが最大の仕事なのです

- この公園の魅力は何か。
- 公園利用者に一番知って欲しい、利用して欲しいことやものは何か。

## (3) 特定公園施設

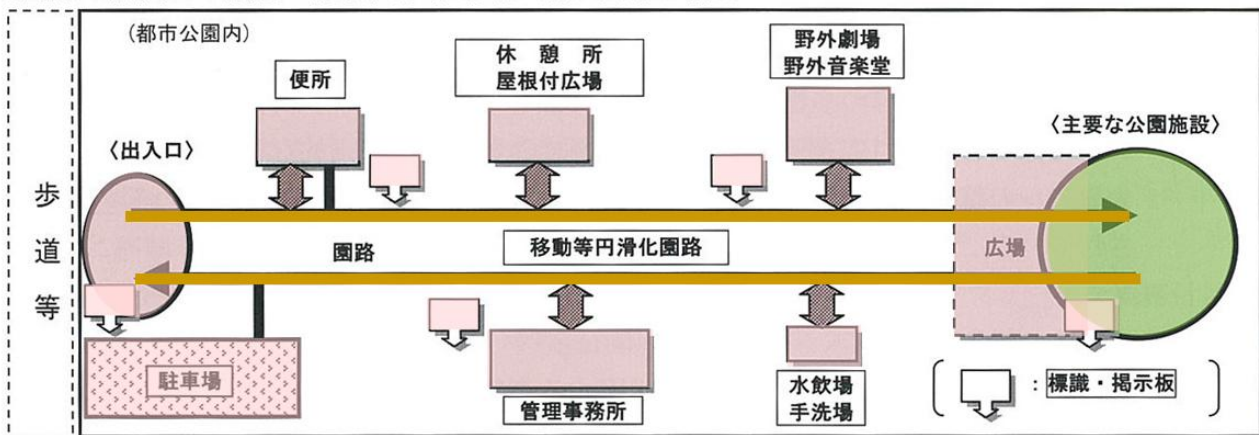
- 公園をバリアフリー化するために、優先的に決められた施設があります。

### 特定公園施設とは？

- ①園路及び広場、②屋根付き広場、③休憩施設（休憩所・ベンチ・野外卓）、④野外劇場、⑤野外音楽堂、⑥駐車場、⑦便所、⑧水飲み場、⑨手洗い場、⑩管理事務所、⑪掲示板、⑫標識

その他にもいろいろな施設がありますが、まず上記の 12 種類の公園施設が優先すべき施設（特定公園施設）です。なお、園路は縦横無尽にあるかもしれませんが、主要な入口から一筆書きで基に戻るることができる園路が優先順位の高い園路となります。

### 【園路と施設との接続の概念図】 移動等円滑化園路の構造



## (4) 主要公園施設

- 特定公園施設以外にも、バリアフリー化を進めるのが望ましい施設があります。
- このチェックシートでは、主要公園施設として、下記の施設や項目を扱っています。

### 本チェックシートで扱う主要公園施設

- A 修景施設    B 遊戯施設    C 運動施設    D 教養施設    E 運営

## 2. 準備

### (1) 関連する資料収集をします

- 公園に関する資料（パンフレット、図面等）  
事前に入手するか、インターネット情報等で確認し、必要なものをプリントアウトしましょう。
- 都市計画図、公園の周辺図（グーグルマップ等）  
公園周辺状況の確認に使います。  
最寄りの駅、公共施設、福祉施設、学校等があるかなどを確認しましょう。

### (2) 公園を中心とした施設を確認しましょう

公園を中心に半径約500mの円を書いて、その中には上記の施設のほかにどんな施設があるか確認しておきましょう。

#### 半径500mの意味

ここで描く半径500mの円とは、歩いて行って帰られる距離の目安となります。

- 公園周辺の高齢化状況（住区別の年齢別人口）・・・公園周辺にはどのような人が住んでいるのでしょうか。住区別の人口データを用いて、把握しておきます。公園の周辺散策をして、お住まいの人と出会うことがあったら状況を聞いてみて確認するなどでも状況把握には有効です。
- 公園の多機能の有無の確認  
公園には遊具や、集会場、特殊施設（緑の相談所、植物園、歴史的施設、運動施設等）の他に、色々な役割が決められた公園があります。例えば、防災拠点（避難地）、お祭り等イベントの開催場所等です。このような目に見えないことを知ることで、公園の利用方法が広がる場合もあります。公園のもつ多くの機能を確認しておきます。

### (3) 道具を用意してでかけましょう

- 道具（筆記用具、巻き尺、コンパス（磁針）、カメラ）を準備します。なるべく両手が使えるようにした方が調査がしやすいです。
- その他あると重宝するもの・・・傾斜を測定する機材、照度計などがあると、より正確に調査ができます。

傾斜を測定する機材・・・機材が販売されていますが、スマートフォンアプリには傾斜を測定できる機能があるものがあります。

照度計・・・これも機材が販売されていますが、概ねの目安として、以下のようなことから基準となる照度を判断しても良いでしょう。

1Lux：3～4m離れて顔の判断ができる

5Lux：足元に落した鍵が判断できる

### 3. チェックの手順

#### (1) 公園周辺の確認をしましょう

- ・周辺の主要な施設として、何があるか。
- ・公園への主要アクセスはどうなっているか。
- ・外周道路のユニバーサルデザイン化状況はどうか。

#### (2) 公園内の概要を確認をしましょう

- ・主要な入口と移動等円滑化園路とすることが必要な園路はどれか。
- ・園路に接する特定公園施設はどこにあるか。
- ・特定公園施設以外の主要施設はどこにあるか。
- ・管理者へのヒアリング（ソフトウェアの実施状況）
- ・利用者へのヒアリング（利用状況）

#### (3) 調査の準備と下調査をしましょう

##### 1) 公園の最も魅力的な場所や施設を整理して、区分け図を作成します

- ①公園は、いろいろな場所に車椅子で到達できても、そこに何もなければ徒労感が残ります。特に広い公園の場合には、その配慮が必要であることを意識して、公園を再確認します。
- ②管理者は、園内における人気スポットや季節の魅力ポイントを整理しておきましょう。日常の管理者しか知らないことなどもあります。
- ③魅力施設の位置や範囲を明確に捉え、図に記載します。この時、園内の施設も概ね記載しておく確認しやすいです。
- ④園路は、分岐点や仕様が変化する場所によって、区分けを行います。

##### 2) 特定公園施設および園路の下調査を行います。

- ⑤図を持って、園内の園路を主体とした下調査を行います。この時、図面の園路や施設が現状と合っているかの照合も行います。なお、下調査は、雨天の翌日などに行った方がよいです。晴天時では気づかない不具合（水溜まり、滑り面等）が解ります。
- ⑥図は、主要出入口から、園路、施設と順番に通し番号を記入するとともに、公園施設調査表に園路の幅員、勾配、仕様および施設の位置と番号を記入していきます。

##### 3) 主要入口から一周できる移動円滑化園路を仮に選出しましょう。

- ⑦特定公園施設及び主要な公園施設（公園の魅力）にアクセスするための出入口と、移動円滑化園路に相応しい園路を設定して、園路区分図の上で仮決めします。複数ある場合は、複数の設定をします。
- ⑧仮決めした移動円滑化園路となるルートは、色等で表示を変えて判りやすくしておきます。良いと思って設定しても勾配が思ったより急であったり、よりよい経路に変更する場合や延伸もあります。

#### (4) シートを使ってチェックしましょう

- ⑨チェックシートを用意します。
- ⑩出入口から仮設定した移動円滑化園路の経路に沿って、チェックシートの項目をチェックします。
  - ・チェックシート中で数値記載の必要なものは、計測して数値を記入します。
  - ・項目別に右側の達成事項を確認して<適><加>に〇をつけます。できていない場合は無印又は×マークを記載します。
  - ・調査は二人一組で行った方が効率的です。一人は測定と写真撮影で、一人はチェックシートの記入を行います。

#### (5) シートの集計をしましょう

- ・各施設の合計欄に<適><加>別に合計を計算します。
- ・チェック項目には次の3種類があります。
  - ①**義務項目**…法律で定められた優先項目…できていれば <適>  
できていて当たり前なので加点にはなりません、できていなければマイナス1です。  
義務項目の<適><不適>を項目ごとに集計します。  
<不適>はマイナスです。このマイナスを減らしていくことが重要です。
  - ②**希望項目**…法律ではないが重要性が高く義務項目に近い項目…加1 解説の<◆>
  - ③**希望項目**…できているとUDとしてより評価できる項目…加2 解説の<◇>  
②③はできていると加点となりますが、できていなくても減点にはなりません。  
希望項目の<加1><加2>をそれぞれに集計します。  
プラスが多いということは、その公園のUD化が進んでいることを意味します。  
その公園のアピールポイントと言えます。

#### (4) 集計をしましょう

- ・各施設の合計欄に〈適〉〈◆〉〈◇〉別に合計数を記入します。

#### 計算の例

$$\langle \text{適} \rangle \times 0 + \langle \times \text{適} \rangle \times -1$$

$$\langle \text{◆} \rangle \times 1$$

$$\langle \text{◇} \rangle \times 2$$